

# 男性職員の育休についての見解は

竹村 仁司議員



取りやすい環境の整備が必要

市長



▲男女がお互いに助け合う街づくり  
(第3次愛西市男女共同参画プラン)

**答** 男女問わず、子育ては大切なものである。職場の中でも仕事は独りでするものではなく、組織、チームでするもの。育児休業を取りやすい環境整備を進めていくことが必要である。

**答** 男女問わず、子育ては大切なものである。職場の中でも仕事は独りでするものではなく、組織、チームでするもの。育児休業を取りやすい環境整備を進めていくことが必要である。

**問** 家事・育児・介護をし、活躍できる職場環境を整備することが、女性の活躍促進宣言の一番鍵を握るテーマになる。まず育児について考える。育児休業は、どのような場合に取得できるのか。あわせて、これまでの男女の取得率は。

**答** 育児休業は、職員の子どもが3歳に達する日まで取得することができる。平成30年度、女性は100%、男性は0%。令和元年度については、男性が2人育児休業を取得している。1人は約5カ月、もう1人は10日間。

**問** 今は、パートナーである女性に偏りがちな育児や家事の負担を夫婦で分かち合う時代。男性の育児休暇に関してどのような考えか。

**答** 男性の育児休業については、昨今、積極的な取得の推進がされている。届出があったときには、職員へ情報提供をして取得を促している。

**問** 市長に尋ねる。これからの若い市職員が仕事と育児の両立を行っていくためには、男女を問わず育児の取得が核家族化や少子高齢化の時代を生き抜く手だてになる。特に、男性職員の育休についての見解は。

**答** 市長に尋ねる。これからの若い市職員が仕事と育児の両立を行っていくためには、男女を問わず育児の取得が核家族化や少子高齢化の時代を生き抜く手だてになる。特に、男性職員の育休についての見解は。

**問** 市長に尋ねる。これからの若い市職員が仕事と育児の両立を行っていくためには、男女を問わず育児の取得が核家族化や少子高齢化の時代を生き抜く手だてになる。特に、男性職員の育休についての見解は。

**答** 市長に尋ねる。これからの若い市職員が仕事と育児の両立を行っていくためには、男女を問わず育児の取得が核家族化や少子高齢化の時代を生き抜く手だてになる。特に、男性職員の育休についての見解は。